

平田正

ひらた・ただし

福山市老人大学学長

経歴

生:大正6年(1917年)、広島県福山市生まれ

没:平成17年(2005年)1月27日、享年88歳

昭和10年(1935年)	18歳	広島県立福山誠之館中学校卒業
昭和12年(1937年)	20歳	広島師範学校第二部卒業
昭和12年(1937年)9月～ 昭和19年(1944年)3月	20～ 27歳	福山市深津小学校訓導
—	—	法政大学法学部卒業
—	—	慶応義塾大学経済学部卒業
昭和19年(1944年)	27歳	福山市立実践女学校教諭
昭和22年(1947年)5月～ 昭和26年(1951年)	30～ 34歳	広島青年師範学校附属中学校
昭和26年(1951年)～ 昭和28年(1953年)	34～ 36歳	広島大学福山附属中学校教諭(社会科)
昭和28年(1953年)～ 昭和35年(1960年)11月	36～ 43歳	広島大学福山附属高等学校教諭(社会科)
昭和35年(1960年)	43歳	広島県教育委員会指導主事・社会教育課長
昭和38年(1963年)	46歳	福山教育事務所社会教育課長
昭和40年(1965年)	48歳	広島県教育委員会課長補佐(成人教育)
昭和42年(1967年)	50歳	広島県芦品郡新市小学校校長
昭和43年(1968年)	51歳	福山教育事務所所長
昭和45年(1970年)	53歳	三原教育事務所所長
昭和47年(1972年)～ 昭和49年(1974年)7月31日	55～ 57歳	広島県立福山養護学校校長
昭和49年(1974年)8月1日～ 昭和53年(1978年)3月31日	57～ 61歳	広島県立福山葦陽高等学校校長
昭和50年(1975年)	58歳	文部省派遣海外教育事情視察(アメリカ・カナダ)

昭和51年(1976年)	59歳	広島県高等学校童話教育推進協議会会長
昭和54年(1979年)～ 平成6年(1994年)	62～ 77歳	福山市老人大学学長
昭和53年(1978年)～ 平成10年(1998年)	61～ 81歳	福山市手城公民館館長
昭和53年(1978年)～ 昭和63年(1988年)	61～ 71歳	家庭裁判所(福山)民事・家事調停委員
昭和53年(1978年)	61歳	福山 YMCA 顧問・名誉顧問
昭和53年(1978年)	61歳	広島県バレーボール協会福山支部長・名誉支部長
昭和53年(1978年)	61歳	福山市手城保育所理事
昭和57年(1982年)	65歳	福山市まこと保育所理事
昭和58年(1983年)～ 昭和59年(1984年)	66～ 67歳	広島県教育懇談会委員
昭和61年(1986年)	69歳	広島県 NHK 視聴者会議委員
昭和61年(1986年)11月15日	69歳	生涯教育賞(生涯教育研究所 NHK 広島放送局)
昭和63年(1988年)4月29日	71歳	勲四等瑞宝章
平成2年(1990年)10月20日	73歳	青少年奉仕賞(日本キリスト教青年会同盟)
平成7年(1995年)	78歳	広島県体育協会体育賞
平成8年(1996年)	79歳	法務大臣表彰
平成11年(1999年)	82歳	百まで働こう会福山支部長
平成12年(2000年)	83歳	文部大臣感謝状
平成15年(2003年)	86歳	福山市生涯学習振興基金運営委員
平成15年(2003年)	86歳	福山市明るい選挙推進協議会委員
—	—	法務局人権擁護委員

「抱十会」

平田正 (昭和10年卒)

「放縦」と違って、抱十というのは昭和10年の誠之館卒業生の同級生会のことである。お互いがかかえ合い、いだき合うという意味である。

卒業後、しばらくたった昭和21年(1946年)頃、学年会を催し、発会し、爾来級友の親睦と発展を中心として、この抱十会は盛会をつづけている。

この抱十会の私たちは昭和5年(1930年)入学し、日本の歴史でも満州事変の勃発など、変革のはじまりで、当時の私たち中学生生活にも変化に富んだものであり、今、回顧して、懐しさで一ぱいであり、心の温まる想いがする。

先ず、霞町の古色蒼然たる歴史ある校舎より、三吉町の福山師範学校跡への移転が、丁度、2年生と3年生の間の春休みに行なわれた。

トラックに、机や植木を積んで運んだこと。

そして、廃墟と化した三吉町校舎を学友と共に再建したこともよき思い出である。

授業も懐しいものが多く、教育に関係する私の今の立場から考えてもユニークなものが多かった。

凸凹の多い机で、男ばかり教室いっぱい、質実剛健、誠之！！誠之！！とって5年間精出した青春時代は今の生活の原動力であり懐しいものである。

講義式が中心であったが、宿題も多いし、教権の強い時で生活指導もやかましかった。

修身の授業は校長さんがされたが、担任の先生の監督のもとで、いかめしいものであった。

それでも中には英語の単語を暗記していた者もいたようだ。

よい悪いは別として、成績序列も学期ごとに明瞭になり、お互は番数が落ちないようにと一生懸命であったことも事実である。

現在の高校でもクラブ活動を重視しているが、案外、当時の方が部活動は盛んであった。

私は剣道部に属していたが、中学生活の中心はこんな部活動にも重点があった程である。

学校行事も今と余り違ったとはいえないが、気候の関係もあって、毎年1回は大雪が降って、雪中行軍で授業がとぶのがまた楽しみでもあったようである。

また、時代も違うが、教練や野外演習なども大きいウエイトである。

次にまた特筆したいのは、応援団の改組である。

私たちの4年生までは、上級下級の間が応援歌の練習を中心として、余り仲がよくなかった。

重圧さえ感ずるものであった。

学校当局の提案もあって、5年生の時、応援団役員に学校の役員を当てるといふ、いわば、官制的色彩も加わったのが私たちの時からである。

私は、そんなもののまとめ役にもなり、私からいえば官制よりも、民主的で、上級生の重圧をなくする思い切った改革であったと思っている。

応援歌の練習もしたが教師も交えて楽しい雰囲気気楽に学園集会というイメージが出来たように思っている。

さて、中学生活の思い出はこの位にして、次は、抱十会として同窓会への働きである。

まとめりもよいわが十年組は、大同窓会にも当初から比較的多く参加していた。

然し、明治・大正・昭和の卒業生のほんの有力なメンバーが中心で、数も百人前後の事が長く続いた。

たまたま、当番幹事学年の昭和2年組と私たち昭和10年組とが中心になり、多くの卒業生のための大同窓会を計画し、一挙に千人近い同窓生を大動員し、今日の同窓会総会の道筋が出来たことは誠に喜ばしい次第である。

一体、同窓会の在り方は、その学校の校風の延長であり、極めて大事なことである。

私は広福山附属で15年間教鞭をとり、葦陽高等学校長を4年間すごし、他の学校での教師や、教育行政にもいたので、それぞれの長短が窺われるのである。

それは、その在学生だけの校風でなく、歴史の積み重ねであり、卒業生、在校生、同窓会、

PTA 等渾然一体での学校カラーの総和がその学校を物語っているように思う。

私の関係した3校についても、葦陽は何んとしても貞淑温順な精神が校風になり、同窓会の会合に出てもその色彩を強く感じるし、廣大福山附属においては、自由・闊達で歴史の若さはかくし切れないのであり、わが誠之館は一貫して誠之の精神と質実剛健が在学生にも同窓会にもにじみ出ているように思う。

抱十会の学年会でも、50年前を思い出しては、質実剛健をモットーとして当時の応援歌を斉唱して別れるのが常例になっているのも、こうしたことを物語っている。

私たちの卒業後は、日本にとっても、戦前・戦時・戦後と有史以来の大変革のあった時である。

教育制度も二転三転し、現在は総合選抜制による誠之館高校である。

私たち抱十会の会員も、この歴史と共に極めて多難な生涯を過してきた。

しかし、変っても変わらざるものは、中学時代の友情であり、誠之館魂である。

霞町校舎のアカシアの樹、三吉町時代のポプラの並木、今は所は二転三転しても私たちの心からは、離れない懐しいものであり、今後の生涯の生きる糧にもなってくれるものと思う。

(出典1)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
02136	平田正 著	『一すじの道－私の教育随想－』	東方出版	昭和56年
02137	平田正 著	『生涯大学－生きがいと長寿の創生－』	平田正	平成元年
03460	平田正 著	『人間回復の社会奉仕』	平田正	平成15年
02060	平田正 著 福山誠之館同窓会 編	「抱十会」、『懐古－誠之館時代の思い出－』、157頁	福山誠之館同窓会	昭和58年

出典1:『懐古－誠之館時代の思い出－』、157頁、「抱十会」、平田正、福山誠之館同窓会編刊、昭和58年5月15日

出典2:『すい松館 深津小学校百二十周年史』、深津小学校百二十周年記念誌編集委員会編、深津小学校百二十周年記念誌発行委員会刊、平成7年3月1日

出典3:『福山附属五十周年記念誌』、375頁、広島大学附属福山中・高等学校編刊、1999年11月15日

出典4:『創立七十周年記念誌』、序・253頁、広島県立福山葦陽高等学校七十周年記念誌編集委員会編、広島県立福山葦陽高等学校・同窓会・PTA・ETA 刊、昭和53年5月28日

出典5:『黎明(第10号)』、84頁、広島県高等学校退職校長会福山地区支部編刊、平成17年11月

2007年8月22日追加●2008年2月22日更新:経歴・本文・出典●2008年3月3日更新:経歴・出典●2008年7月3日更新:経歴●2009年8月19日更新:経歴・誠之館所蔵品●2011年8月18日更新:誠之館所蔵品●2011年8月24日更新:本文●